**一般的な質問**

**OpenChainとは何ですか?**

OpenChain プロジェクトは、フリー／オープンソース ソフトウェア (FOSS) についての高品質なコンプライアンスプログラムの核となる構成要素を明確化し、共有していきます。OpenChainは、物事をよりシンプルに、より効率的に、そしてより首尾一貫させることにより、オープンソースの世界に信頼を築きます。つまりこれは、サプライチェーン全体にわたってオープンソースのコンプライアンスを達成するための業界標準規格です。

**OpenChainの構成要素とは何ですか?**

OpenChainの仕様は、組織と組織の間に信頼を創出します。OpenChainに適合することで、組織は信頼の輪の中に入ることができます。OpenChainのカリキュラムは、組織の大小を問わず適用できます。その結果、オープンソースは組織内外の様々なタイプのサプライチェーンにふさわしく最適化され、予測可能でわかりやすくなります。

**OpenChainに適合している組織はどうすればわかりますか?**

[OpenChain適合組織のリストをご覧ください。](https://www.openchainproject.org/openchain-conformant).

**OpenChainの取り組みを教えてください。**

The OpenChain プロジェクトは三つのワーキング グループからなり、誰でも参加して貢献することができます。:

1. 仕様ワーキング グループ – FOSSコンプライアンスプログラムが満足すべき一連の要件を明確化し公表します。
2. カリキュラム ワーキンググループ – トレーニング用資料を提供することで、仕様に規定された教育要件を満たす手助けをします
3. 適合性ワーキング グループ – 企業が仕様の要件を順守しているかどうかをチェックする手助けをします。

さらに、有償で参加できる三つの委員会があります。:

1. ガバニング ボード – プロジェクト、資金集め、予算その他についての方針やルールと手続きを管理します。
2. ステアリング コミッティー – OpenChain コンプライアンス仕様の開発、管理および更新。
3. アウトリーチ コミッティー – ガバニング ボードと連携して、オープンソースと関連のあるサプライチェーン全体にわたってOpenChainコンプライアンス エコシステムを構築するための施策を設計、開発および実行する。

**OpenChainと CII Best Practices の関係を教えてください。**

OpenChain と CII Best Practices はいずれも、FOSS プロセスの品質基準を明確化するための Linux Foundation の取り組みです。OpenChain は、i) 組織外のプロジェクトから供給されるFOSSを自組織のソリューションに活用する組織においてコンプライアンス プログラムを改善することと、ii) FOSSコミュニティーへ成果を還元するためのプロセスにフォーカスしています。これに対して、CII best practices badge はFOSSプロジェクト自体を良い状態で運営するための基準にフォーカスしています。CII Best Practices badge の取得に関心のある方は、[CII Best Practices ウェブサイト](https://bestpractices.coreinfrastructure.org/) をご覧ください。

**OpenChainの各側面についてさらに学べる場所はありますか？**

以下をぜひご覧ください！

**OpenChain 仕様について**

**OpenChain 仕様の目的を教えてください。**

あるFOSSコンプライアンス プログラムが満足すべき一連の要件を定義することです。これは、組織が他者と共有するソフトウェアについて、FOSSライセンス コンプライアンスを達成するのに必要な証跡を組織が提供するという、一定水準の信頼です。コンプライアンス 証跡は、あるソフトウェア配布物を支配するオープンソース ライセンスが要求する、ソースコード、ビルドスクリプト、ライセンス文書、帰属の通知、改変の通知などの文書類からなる。

**最新版の仕様はどこで手に入りますか？**

[OpenChain 仕様 1.1](https://wiki.linuxfoundation.org/_media/openchain/openchainspec-1.1.pdf) が、私たちが策定した最新の業界標準規格です。

**FOSS プログラムが OpenChain 適合と見なされるためには、仕様のすべての要件を満足する必要がありますか？**

はい。この仕様は、コンプライアンス プログラムが一定水準の品質を達成していることを確かなものにするための要件一式を提供するよう策定されています。OpenChain 適合プログラムに、低品質なアウトプットを引き起こしかねない著しいギャップがないことを確実にするため、コンプライアンス プログラムが OpenChain 合と見なされるためにはすべての用件を満足しなければなりません。

**あるソフトウェアの提供が OpenChain 適合であるということは、何を意味しますか？**

供給されるソフトウェア自体については OpenChain 適合かどうかの判別はしません。そのソフトウェアを用意するにあたって適用された FOSS コンプライアンス プログラムが、OpenChain 適合判定の候補となります。ソフトウェアのサプライヤが OpenChain 適合であると宣言しているとき、そのサプライヤのコンプライアンスプログラムが OpenChain 仕様のすべての要件を満足していることを意味します。ソフトウェアのサプライヤは、そのソフトウェアが OpenChain に適合したコンプライアンス プログラム下で用意されたと宣言することができます。同様に、ソフトウェアを受け取る側はサプライヤに対して、受け取ったソフトウェアが OpenChain に適合したプログラム下で用意されたかどうかを尋ねることができます。

**プログラムの適合を達成するために、一つの組織のすべてのソフトウェアが OpenChain に適合したプログラムによって取り扱われる必要がありますか？**

いいえ。組織は、異なるプログラムとリリース手順を持つ複数のグルーブや部門から構成されていることがよくあります (たとえば、エンジニアリング部門 と 専門的サービスを提供する部門)。一つの組織内の一つの FOSS プログラムが仕様の要件を満足していれば OpenChain 適合と格付けできる一方で、別のプログラムがそのように格付けできなくても構いません。ソフトウェアが OpenChain に適合済のプログラム下でレビューされていない場合、そのソフトウェアを OpenChain 適合性と結びつけることはできません。

**この仕様は一つのベストプラクティスガイドとして使えますか？**

いいえ。この仕様の主要な目的は、既存のFOSS コンプライアンス プログラムが十分かどうかを評価する手助けとなる一連の要件を提供することです。そのため、この仕様は「何を」と「なぜ」の側面にフォーカスしており、「どうやって」や「いつ」には触れていません。FOSSコンプライアンス プログラム (「どうやって」と「いつ」) の構成にはたくさんの異なる方法があり、いずれの方法でもこの仕様を満足することができるでしょう。この仕様は、プログラムが基本レベルの品質と一貫性を持っているかどうかを評価する一つの方法を提供します。これにより、ソフトウェアのサプライヤはそのユーザに対して、自身が提供するコンプライアンス 証跡が、標準的なレベルの品質を満たしたFOSS プログラム下で作成されたと表明することができます。

**この仕様はどのようにして開発されましたか？**

OpenChain プロジェクトは、ソフトウェア サプライチェーンの中でソフトウェアの作成ややり取りを経験してきた多数の個人、会社、組織からの提案を受け入れました。参加することに特段の要件は設けていません。OpenChain プロジェクトは、コンプライアンス プログラムの六つの主要なカテゴリーと、各カテゴリーについて重要なタスクと成果物を明確化しました。

1. FOSSに関わる責任の理解 [すなわちポリシーとトレーニング]
2. コンプライアンスを履行するための責任者のアサイン
3. FOSSコンテンツ ドキュメントとコンプライアンス関連資料の頒布
4. FOSSコンテンツのレビューと承認
5. FOSSコミュニティへの（積極的な）関わり方の理解
6. OpenChain 要件適合の認定

**FOSS プログラムが OpenChain 適合であることを宣言するために、第三者による監査は必要ですか？**

いいえ。OpenChain 仕様は、シンプルな構成で要件のリストを提供しています。各要件には一連の合否判定基準 (検証すべき証跡) が規定されています。各要件は、FOSS プログラムが維持すべき重要な品質を記述したものです。一つの要件についての検証すべき証跡は、仕様の要件を満足していることを判定するために存在していなければならない具体的な証跡のリストの形で提示されています。証跡は存在していなければなりませんが、それらを公開する必要はありません。この仕様の究極のゴールは、ソフトウェアをやり取りする当事者間にFOSSコンプライアンスについての信頼関係を育てることです。現在のところ、第三者による監査は OpenChain 仕様の要件ではありませんが、パートナーや顧客は、ビジネスを行う条件として、検証すべき証跡の証拠を要求することができます (たとえば機密保持契約を締結した上で) 。すなわち、証跡の存在の証拠を提示する義務や、それを進んで提示する意思は、当事者同士が結ぶ関係性によって決まります。第三者による認証をどのようにして得るかについてのもっと具体的なガイドラインを、本仕様の将来の版において提示する可能性について、議論がなされています。

**この仕様は、よく使われるFOSSライセンスをどのように順守するかについて記述されていますか？**

いいえ。この仕様は、法的なガイダンスを提供するものではありません。そうではなく、この仕様は、法的ガイダンスの支援を提供する法律のエキスパートを、組織が指名することを要求しています。さらにこの仕様は、ライセンスの義務の分析 と 履行に対して適切な注意が払われることを確かにするプロセスが存在することを要求しています。

**OpenChain プログラムに適合すればライセンスへのコンプライアンスは保証されますか？**

いいえ。しかし OpenChain 適合プログラム下で用意されたソフトウェアリリースについては、ライセンスへのコンプライアンスが達成される可能性が著しく高まります。

**私の組織が OpenChain 適合を達成するのを支援するリソースは、存在しますか？**

OpenChain カリキュラム ワーキンググループは、FOSS コンプライアンス トレーニング プログラムの作成 (または強化) を大いに促進する参照トレーニング資料を開発しました。OpenChain 適合ワーキンググループは、プログラムが OpenChain 適合であることを組織が自己認証する際に指針となる質問表を開発しました。The Linux Foundation は OpenChain FOSS コンプライアンス プログラムの実施を助ける便利なツールやコンプライアンス プログラムのリソース (たとえば [SPDX](https://spdx.org/), [FOSSology](https://www.fossology.org/" \o "https://www.fossology.org/), …) を提供するさまざまなオープンソース プロジェクトや取り組みに資金提供しています。これらのリソースについては、[Linux Foundation Open Compliance Program](https://www.linuxfoundation.org/offerings/open-source-compliance) をご覧ください。

**OpenChain 仕様のライセンスを教えてください。**

この仕様は、Creative Commons Attribution License 4.0 (CC-BY-4.0) でライセンスされています。このライセンスのコピーはこちらで入手できます。[CC-BY-4.0](https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode)

**OpenChain 適合について**

**OpenChain 適合自己認証の目的を教えてください。**

OpenChain 自己認証は、個別のバージョンごとの OpenChain 仕様  [に関して、OpenChain 適合](https://www.openchainproject.org/spec" \o "https://www.openchainproject.org/spec) の状態を評価できるように設計されています。いかなる大きさの組織も、OpenChain プロジェクトのオンライン自己認証ウェブアプリによって、自己認証を行えます。オンライン自己認証を完了した会社は、 OpenChain 仕様の要件を満足していると確認できます。

**OpenChain オンライン自己認証には、どこからアクセスできますか？**

こちらからどうぞ <https://certification.openchainproject.org/> 。

**OpenChain 自己認証に着手するにあたって、さらなる情報はありますか？**

[OpenChain Conformance ページ](https://www.openchainproject.org/conformance" \o "https://www.openchainproject.org/conformance)の、「Getting Started」の説明 (英文) をご覧ください。

**一旦提出した内容を変更したい場合はどうすればよいですか？**

Online Self-Certification サイトにサインインした後、ページの一番下に [Unsubmit](https://certification.openchainproject.org/) ボタンがあります。このボタンをクリックすることで、以前のOpenChain 自己認証の提出内容をキャンセルできます。その後、適合チェックを再提出できます。

**証跡とはどういう意味ですか？**

証跡とは、OpenChain 適合ポリシーを実施することによる有形の副産物です。証跡には、公開・非公開を問わず、ディジタル文書、ウェブサイト、紙の文書が含まれます。すべての証跡は、それらを使用する組織によって内部的に検証されなければなりません。

**もし、他の組織による提出物に同意できないときは、どうすればよいですか？**

あなたが懸念を持っている組織の名前と、同意できない理由を明記して、[openchain-conformance@linux-foundation.com](mailto:openchain-conformance@linux-foundation.com) に email でご連絡ください。回答期間は四週間以内とお考えください。

**提出した認証要求に対する応答時間はどのくらいと考えればよろしいですか？**

もしすべての情報が正しければ、提出はシステムによって自動的に承認されます。情報の欠落や正しくない回答は、そのユーザによって報告されます。

**オンライン自己認証ウェブアプリに関する問題は、どのように報告すればよいですか？**

何か問題がありましたら [openchain-conformance@linux-foundation.com](mailto:openchain-conformance@linux-foundation.com) に email でご連絡ください。その際には、遭遇した問題について具体的な情報を記載してください。

**プロジェクトに貢献するにはどうすればよいですか？**

参加や貢献の方法についての情報は [OpenChain コミュニティのウェブサイト](https://www.openchainproject.org/community" \o "https://www.openchainproject.org/community) にありますのでご覧ください。

**OpenChain カリキュラムについて**

**OpenChain カリキュラムはどのように使われますか？**

OpenChain カリキュラムのスライド資料集は OpenChain 仕様 1.0、要件 1.2 を満足するための参照資料になります。

**OpenChain カリキュラムの利用者としては、誰を意図していますか？**

OpenChain カリキュラムは、オープンソース ソフトウェアを出荷したり、そのようなソフトウェアをサプライチェーンから受け取る会社の手助けとなることを意図しています。

**OpenChain カリキュラムのスライド資料によるトレーニングセッションは、どのくらいの時間を想定していますか？**

この参照スライドは、半日のトレーニングセッションで伝達されるように作られています。この資料は複数の章に分かれているので、異なる時間割で柔軟に伝達することもできます。また、CC-0 でライセンスされているので、各社が必要なセクションを捨選択して、自社の既存のトレーニング資料を拡張するのに利用することもできます。

**知的所有権のセクションは、どの法域を対象にしていますか？**

OpenChain カリキュラムの参照スライドは、米国の法規にフォーカスしています。この参照スライドを社内トレーニングに使用する際は、このことを考慮に入れる必要があります。異なる法域には異なる法的要件があります。

**これらのスライドが、ライセンスを順守するために必要なことのすべてですか？**

いいえ。これはあくまでも参照資料集です。会社が OpenChain 適合のコンプライアンス トレーニング プログラムに 着手 したり、既存のトレーニング プログラムを OpenChain 仕様に適合させるのを手助けすることを意図しています。

**どうすれば会社や個人が OpenChain カリキュラムに貢献できますか？**

まずは [OpenChain カリキュラム メーリングリストに参加してください。](https://lists.linuxfoundation.org/mailman/listinfo/openchain-curriculum" \o "https://lists.linuxfoundation.org/mailman/listinfo/openchain-curriculum)誰もが参加し、資料を提供したり既存の資料の拡張を支援することを歓迎されます。